

開 会 挨拶

北海道開発土木研究所
理事長 齊藤 智徳

ただ今紹介いただきました理事長の齊藤でございます。第19回北海道開発土木研究所講演会の開催に当たり一言ご挨拶申し上げます。

本日はお忙しい中、かくも多数の皆様にご出席をいただきありがとうございます。また、日頃より当研究所に対し、暖かいご支援、ご指導をたまわり厚くお礼申し上げます。

当研究所は、独立行政法人として発足して早いもので、もう5年目に入っています。研究開発・技術開発も順調に進んでおり、交通事故対策としてのランブルストリップスの開発、蛇行河川の復元技術、別海、湧別でのバイオガスプラントの実証、その他諸々のコスト縮減技術など現場に適用され出しているものもあります。また、技術の指導、普及に力を入れており、技術相談の窓口の開設、研修員の受け入れ、委員、講師の派遣、各種セミナーの開催などを行っています。その他、実験施設・器具の貸し出し、寒地土木技術情報センターの設置、論文検索システムの公開など多彩な活動を行っていますので是非ご利用いただきたいと思います。

この様な事から昨年度・平成16年度もまた、国交省評価委員会から高い評価をいただいています。

一方、昨年夏頃から行政改革の一環として独立行政法人の見直し作業が始まりました。そして暮れ、12月に行政改革推進本部の決定として、平成18年度、来年の4月から当研究所はつくばにある旧建設省の研究機関である土木研究所との統合、職員の非公務員化が決まりました。統合後の名称は土木研究所。次期通常国会に向けて現在、法案の準備をしています。

内部組織等についてはまだ最終決定には至っておりませんが、当研究所のミッション、即ち、「北海道開発を推進するために必要な積雪寒冷地での土木技術を発展させる」と言う事は変わりませんので、現在と同様な機能、運営が出来る組織となるよう調整中です。

平成18年度から新たな組織として再スタートする事になりますが、引き続きご愛顧の程よろしく申し上げます。

さて、本日の講演会ですが、当研究所の研究内容の一端を紹介し、多くの皆様に研究活動に対するご理解



とご協力を得るために開催するもので、開発局の附属機関であった昭和61年に第1回講演会が開催され、今回で19回目となります。

今回は特別講演として環境省釧路自然環境事務所星野一昭 所長をお招きして、今、道内で最もホットな地域「知床」について、「知床の課題～世界自然遺産登録を受けた取組み～」と題してご講演をいただく事になっています。

ご承知の様に今年の7月、知床は世界自然遺産に登録されました。マスコミ報道などを見ていますと、自然遺産としての保護・保全と地元の経済活動との調整など難しい課題が有る様に見受けられます。その辺のお話、或いは、マスコミ報道などには出てこない様な興味深いお話が聞けるのではと期待しています。

星野所長よろしく申し上げます。

また、当研究所からは3課題の講演を予定しています。内2件は環境に関するもので、一つは農業土木研究室長の中村より「酪農流域の水質環境とその改善方法」、もう一つは水産土木研究室長の足立から「沿岸域の生物環境と河川水の係わり～石狩湾を例として～」です。そして、3番目に防災雪氷研究室長の加治屋より「雪みちに挑む新技術～安全・快適 北の道～」と題して講演を行います。長時間になりますが終わりますまでお聞きいただきたいと思います。

最後になりますが、北海道開発土木研究所に対するなお一層のご理解とご支援ご協力をお願いして開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。